

# IX その他の文化財

## 1. 籬が島

塩竈湾の北岸近くに浮かぶ周囲約 150mの籬が島は、曲木島とも称し、島内に鹽竈神社の末社籬神社がある。大正以降の港湾整備で湾内の島々が消え去り、現在湾内唯一の島となった。歌枕として「塩竈の浦」、「千賀の浦」とともに多くの和歌に詠まれている。

「思ひやるなみだしあればめにちかきまがきの島の心地こそすれ（和泉式部続集 和泉式部）」

「塩がまのうらふく風に秋たけてまがきの島に月かたぶきぬ（金槐集 実朝）」  
松尾芭蕉も『おくのほそ道』の旅で訪れ、籬が島も間近に見える塩竈の浦（千賀の浦）からの情景に深く感動したことを記している。

今日も籬が島は、和歌に詠まれた心に感じる風景を伝えており、「おくのほそ道の風景地」として国の名勝に指定されている。



籬が島

## 2. 野田の玉川の碑

芭蕉も『おくのほそ道』に訪れたことを記している野田の玉川は、母子沢町をはじめ市内西南部から多賀城市の砂押川に流れる細流で、井出の玉川（京都府）、野路の玉川（滋賀県）、高野の玉川（和歌山県）、調布の玉川（東京都）、三島の玉川（大阪府）とともに六玉川の一つであり、歌枕として多くの和歌に詠まれた。

玉川一丁目の民家の庭先にあるこの古碑には「夕されば潮風越してみちのくの野田の玉川千鳥鳴くなり」（新古今集 能因法師）の歌が詠まれ、頭部には『野田の玉川』の文字が彫られている。裏面には塩竈の俳人白坂文之が、1787年（天明7年）の晩夏に建立したことを記し、「玉川や田うた流るる五月雨」と詠んだ句がそえられている。



野田の玉川の碑（左側）

### 3. 駒犬城こまいぬじょう

室町時代に塩竈に駒犬城という城があった。現在の東園寺の墓所が、駒犬城のあったところである。

新撰陸奥風土記しんせんみちのくふどきという本に「鹽竈神社しんせんみちのくふどきの東南さとうのぶたかの山に佐藤信高さとうのぶたかという者の城跡がある。」と記されている。この駒犬城は、もと留守家るすけの城であったようである。それが後に留守家の重臣である佐藤氏の居城となった。

餘日記録あまるめという古文書の中に、1350年しやうへい（正平6年）吉良氏きらしと畠山氏はたけやましとが争ったとき、吉良氏が駒崎城にいたとあるが、この駒犬城のことであると思われる。

佐藤氏は、伊達家だてから出た政景まさかげが留守家のあとを継ぐことに反対したため滅ぼされ、この駒犬城も1570年～1573年げんき（元龜年間年）に廃城となった。



駒犬城跡（旭町）

### 4. 勝画楼しょうがろう

江戸時代の鹽竈神社には、法蓮寺ほうれんじという寺院が付属していた。法蓮寺は、東参道ひがしさんどう（裏坂）の下にあり、さらに参道さんどうの両側には僧坊そうぼうがたち並んでいた。

法蓮寺には、「勝画楼」と呼ばれた書院があり、鹽竈神社に藩主が参拝するときに衣服を改めたり休息する場所として使用された。

この書院は、懸造かけづくりといって崖からなかば乗り出すような形で建てられており、とても眺めがよかったことから「画えにも勝まさ」眺めという意味をこめて、五代藩主の伊達吉村によって「勝画楼」と名づけられたとされる。

明治時代に入って法蓮寺は廃止され、東参道沿いにあった僧坊なども取り壊されたが、「勝画楼」を含む法蓮寺の一部が残された。また、1876年（明治9年）に明治天皇が東北地方を巡幸じゆんこうされたとき、塩竈での行在所あんざいしょとして使用された。

1911年（明治44年）から半世紀に渡り料亭として使用された。その後長期間、空き家となっていたが、2017年（平成30年）に日本遺産と塩竈市文化財に指定され、現在は市が管理している。



勝画楼

## 5. 寒風沢造艦の碑

藩政時代の寒風沢港は、千石船せんごくぶねが発着する港として賑わっていたところで、仙台藩にとって重要な港であった。

寒風沢造艦の碑は、この地で仙台藩の命により、三浦乾也みうらけんやが東北で初めて西洋式軍艦を建造したことを記念し、その門人たちにより建立されたものである。

この軍艦「開成丸」の建造にあたっては、藩領各地から良材を収集し、1856年（安政3年）に起工、翌年秋に完成をみている。進水式には、第十三代藩主伊達慶邦だてよしくにや各藩の重役が多数参列し、その姿は目を見張るものだったという。



開成丸調練帰帆図 仙台市博物館蔵



寒風沢造艦の碑

## 6. 塩竈市公民館分室 塩竈市杉村惇美術館

江戸時代に代官所だいかんしょ、明治時代には塩竈小学校があった場所に、塩竈市公民館として1951年（昭和26年）に完成した。その構造は、一階を鉄筋コンクリート造、二階を木造としているが、外観上はあたかも鉄筋コンクリート二階建てのように見せている。また、柱や外壁、門などに表面仕上げとして大量の塩竈石が使用されており、当時としては、モダンで美しい公民館として話題を呼んだ。

また、1957年（昭和32年）、大講堂が増築されたが、柱に集成材を使用し、逆さカテナリー曲線けんすい（懸垂曲線）を木造で実現した美しい構造となっており、日本でも初期の建築とされている。1976年（昭和51年）、東玉川町に新しい公民館が建設されたが、利便性の良さなどから「塩竈市公民館本町分室」として残された。

2013年（平成25年）に塩竈市有形文化財に指定され、大規模改修を行い、翌年に「塩竈市杉村惇美術館」として、公民館へいせつに美術館が併設する複合施設となった。



塩竈市公民館分室・塩竈市杉村惇美術館